1Ja-8

# くつろぎのための照明に関する研究
## －求められる雰囲気と明るさ－

○井上容子* 石田享子* （*奈良女大・院）

**［目的］**生活の中での照明の役割は明視性の確保、室内雰囲気の演出、サイン、防犯と多岐に渡る。活動のためには十分な明るさを得ることが照明計画上重視されるが、くつろぐためには適度な暗さや陰影を利用した雰囲気照明が求められる。本報では在室者が「くつろぎ」に求める雰囲気と明るさを「天井照明＋壁照明」の場合について検討する。

**［方法］**被験者は奈良女子大学学生20名であり、その内10名が住環境学専攻である。まず、ｲﾝﾃﾘｱへの興味、くつろぎのための空間に求める雰囲気並びにその際照明に関して重視する内容を回答させる。次いで4.5畳大の部屋（床の反射率26％・壁85％、光天井：蛍光灯3000K、床面照度20lx）に入り、ソファーに腰掛けて室の視環境評価を行い、その後くつろぎ空間に相応しくなるよう壁面の点光源（半球状乳白色カバー付き白熱球一灯、初期条件：0cd/㎡）の明るさを調節し、最後に調節後の視環境評価を行う。光源位置は同一壁面内で11箇所に変化させ、被験者の座位置は取り付け壁に正対と側対の2種類である。

**［結果］**「くつろぎ」に求める雰囲気の内「暖かみのある、やわらかな、ゆったりした、のんびりした、落ち着いた」は調光により改善可能であるが、「静かな、さわやかな、清潔な」のうち特に後2者は調光では殆ど変化しない。壁照明に対しては光の広がりや眩しくないことが重視され、光源位置や座位置により求める明るさは異なる。各条件での平均設定値は光源輝度400～800cd/㎡、床面照度20～40lxの範囲である。光源位置は上方が好まれ、上方ではくつろぎ空間としての満足度が高い程明るく設定され、下方では逆に低い傾向にある。天井照明のみの場合には、約40lxと相対的に高い室内照度が求められる。